



- 1 気象概況（果樹研究所 4月中旬）
 4月3～4半旬の平均気温は、3半旬が10.3℃で平年より0.4℃低く、4半旬が13.9℃で平年より2.4℃高く経過しました。
 また、この期間の降水量は15.5mmで平年の48%でした。
- 2 土壌の水分状況
 4月20日における土壌水分（pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmで1.9、深さ40cmで1.7、深さ60cmでは1.6となっており、ほぼ適湿状態にあります。
- 3 発育状況
 - (1) なしの開花始めは、「幸水」が4月13日、「豊水」が4月9日で平年より8日早く、満開は、「幸水」が4月19日、「豊水」が4月16日でともに平年より7日早い状況でした。
 - (2) りんごの開花始めは、「つがる」が4月19日で平年より7日早く、「ふじ」が4月18日で平年より8日早い状況でした。
 - (3) おうとう「佐藤錦」の開花始めは4月14日、満開は4月20日でともに平年より5日早い状況でした。
 - (4) ぶどう「巨峰」の展葉は4月16日で平年より9日早い状況でした。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月5日	4月14日	4月12日	4月11日	4月20日	4月17日
	ゆうぞら	4月5日	4月16日	4月12日	4月11日	4月21日	4月17日
なし	幸水	4月13日	4月21日	4月17日	4月19日	4月26日	4月22日
	豊水	4月9日	4月17日	4月13日	4月16日	4月23日	4月19日
りんご	つがる	4月19日	4月26日	4月21日	未	5月1日	4月25日
	ふじ	4月18日	4月26日	4月22日	未	5月1日	4月25日
おうとう	佐藤錦	4月14日	4月19日	4月16日	4月20日	4月25日	4月22日

注) 平年値は、1986～2015年の平均値（おうとうは1994～2015年）。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月8日	4月19日	4月14日	4月16日	4月25日	4月22日

注) 平年値は、1988～2015年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成27年4月21日発表)より

週別の気温は、1週目は、東北日本海側で平年並または高い確率ともに40%、東北太平洋側で平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目において、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。本年は、生育が各樹種ともに平年に比べ5～10日程度進んでいるので、生育ステージごとの安全限界温度以下に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施してください。

事前対策として、防霜資材の手配と準備は必ず行うとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるので注意しましょう）。

また、空気や土壤が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壤水分の確保に努めましょう（乾燥条件は気温の低下を助長します）。

降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認のうえ、人工受粉を徹底し結実確保を促しましょう。

なお、各樹種の現在の生育ステージ及び安全限界温度を下記に掲載していますので参照ください。

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/162046.pdf>

(2) 結実確保対策

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行ってください。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には、事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈を行い、30%以下の場合には希釈しないで使用しましょう。

表3 花粉の希釈倍数（容積比）

花粉発芽率(%)	薬付花粉量	増量剤
81%以上	1	4
80～70	1	3
70～50	1	2
40	1	1
30	1	0

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴうどんこ病、黒星病

開花期前後は、うどんこ病及び黒星病の重点防除時期に当たるため、開花直前にDMI剤のいずれかを散布し被害防止に努めましょう。また、うどんこ病の被害葉そうは見つけ次第せん除し、適切に処分しましょう。

イ なし黒星病

開花前の花托（花床）及び開花後約2週間までの幼果は、本病に対する感受性が非常に高く、重要防除時期に当たります。そのため、開花前後に本病に効果が高いDMI剤を散布間隔が10日以上あかないように散布します。なお、天候の影響等で散布間隔が10日以上あくことが予想される場合には、落花を待たずに受粉が十分に行われた後（満開5日後頃）に防除を行ってください。また、第一次伝染源となる花叢基部病斑は見つけ次第必ず除去しましょう。

ウ ももせん孔細菌病

4月中旬における春型枝病斑の発生ほ場割合は福島地域、伊達地域ともに例年より高い状況にあります（県病虫害防除所、平成28年4月20日付け病虫害発生予察情報注意報第1号）。本病は、春型枝病斑が第一次伝染源となり、風雨に伴って新梢葉や果実に二次伝染するので、ほ場を定期的に巡回し、春型枝病斑は見つけ次第必ずせん除してください。また、落花直後にせん孔細菌病防除剤を必ず散布し、初期感染防止に努めましょう。ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、速やかに防除を行ってください。



図1 ももせん孔細菌病の春型枝病斑

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ越冬世代成虫の誘殺盛期は4月3半旬であると考えられ、第1世代幼虫の防除適期は4月5半旬と推察されたので、ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、速やかに防除を行ってください。

イ ハマキムシ類

今後、気温が平年並に推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月3半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると推察されます。複合交信かく乱剤はハマキムシ類越冬世代成虫の発生前である5月2半旬頃までに設置しましょう。

ウ その他鱗翅目害虫

ナシヒメシクイのフェロモントラップによる初誘殺日は4月7日であり、平年より9日早い状況です（平年値は4月16日）。例年、発生が多い園では、5月2半旬までに防除を実施してください。また、キンモンホソガもこの時期に防除を実施してください。

エ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月4半旬頃であったと予測されます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布してください。

表4 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成28年4月20日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月14日	4月22日	5月11日	5月24日
平年並	4月14日	4月22日	5月15日	5月30日
2℃低い	4月15日	4月23日	5月23日	6月9日

演算方法は三角法（起算日：3月1日）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344
 （以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>